

奈良県小学校理科教育研究会研究部

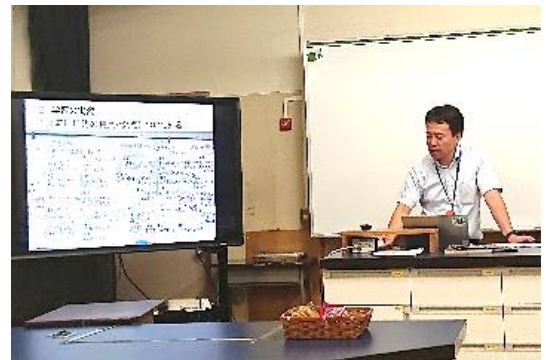
9月（第3回）研修報告

令和元年9月27日（金）於 奈良女子大学附属小学校

実物から学ぶことについて研修をしました。

今回の研修は、「実物から学ぶこと」をテーマに、奈良女子大附属小学校の長島先生にご指導いただきました。実物から学ぶ、つまり、教科書や資料の内容を記憶するだけの時間にしない工夫についての研修でした。

生き物や天気に関わる学習など、ついつい教科書や資料を見るだけになってしまうこともあるかもしれません。そんな時でも「実物」から学ぶことが大切だと思える研修会になったかと思えます。



ポイント①「生き物についての学習」

例えば昆虫の学習で・・・

昆虫を飼っていると、それまで虫嫌いだった子どもだんだん好きになっていくことがよくあります。図鑑で虫のこと、お世話の仕方などを調べていくと、愛着がわいてきて常に生き物の話題が出るようになります。たまごが産まれないという疑問が出ると、「どうやったら産まれるんだろう…？」と自分たちで調べていくこともできます。

⇒ 根気強く、長い時間かけて飼っていくのも1つの方法かと思えます。

時には死なせてしまうこともありますが、それを通して命の大切さを学んでいくこともできます。このような活動を通して、子どもたちは徐々に自然の見方が変わっていくのではないのでしょうか。



やはり・・・

ヒトの誕生の学習は、資料を見るだけで終わってしまうことも多いのではないのでしょうか。研修会では、エコー写真を借りてみたり、保健室の先生と相談してみたり・・・という意見が出ていました。

ポイント②「大雨によって起こる災害の学習」

5年生で、「大雨によって起こる災害」の学習があります。
今回、長島先生に紹介していただいたのは、自分で判断して命を守る、避難の決断ができるようになるという学習です。

雨・・・時間的・空間的にも差が生じてしまい、逃げ遅れてしまう。
⇒ もし自分1人だったらいつ避難するか、
どのタイミングで避難するかを考える。

雨は予測可能だ！

- ・避難勧告で避難しますか？
 - ・避難指示で避難しますか？
- そして、その **理由** は何でしょうか？
(ニュースで見た鬼怒川の氾濫と関連付けた子どももいたようです。)

泥団子からの導入

河川堤防と泥団子と関連付けて、利点と欠点を考えることができます。
泥団子は砂を使うことで修復ができます。河川堤防もこれと同じではないか！？
子どもにとって身近な泥団子と関連付けることで、河川堤防についても理解が深まっていくのがすばらしい発想だと感じました。

○今回は、研修の最後に学年ごとの意見交流会を行いました。
違う学校の様子を知れたり、困っていることの相談ができました。



**本物に出会うと、子どもたちの自然の見方が変わってきます！
時間や手間はかかるかもしれませんが、子どもたちと一緒にじっくりと
自然を見ていくことも大切だと感じました。**

今回も「まず先生自身が考える」研修を行うことができました。とても忙しい毎日が続く中ですが、**共に学ぶ楽しさ**を体験できる奈小理研究部へぜひお越しください！

次回は11月1日（金）18時から、奈良女子大附属小学校です。
内容は、「雨水と地面」（新単元）の予定です。